

2008年3月26日

各位

東京都千代田区丸の内1丁目5番1号
 株式会社 パソナグループ
 代表取締役グループ代表兼社長 南部 靖之
 コード 2168 東証第一部, 大証ヘラクレス
 問合せ先 取締役専務執行役員 川崎 悦道
 (TEL. 03-6734-0200)

2008年5月期 株式会社パソナグループ 第3四半期決算概要

- ・ 総合化戦略をさらに推進、人材紹介、アウトソーシング等の成長分野が大幅に伸長、再就職支援も順調に拡大
- ・ 派遣事業は、優秀な派遣スタッフの長期安定化が進むも、伸び率は鈍化
連結売上高は 1,778 億円（前年同期比 4.1%増）
- ・ 派遣事業における差別化戦略のための投資、成長分野への人的投資など販管費が増加
連結営業利益は 51 億円（前年同期比 23.4%減）、連結経常利益は 51 億円（前年同期比 24.0%減）
- ・ 足元の状況に鑑み、通期業績予想を修正

株式会社パソナグループ（本社：東京都千代田区、代表取締役グループ代表兼社長 南部靖之）はこの度、2008年5月期第3四半期（2007年6月1日から2008年2月29日まで）の業績を発表いたしましたので、概略のご報告をいたします。

【1】連結業績概況（前期の数値は株式会社パソナ）*

（単位：百万円／未満切捨）

	*2007年5月期第3四半期	2008年5月期 第3四半期	前年同期比
売上高	170,700	177,766	+4.1%
営業利益	6,644	5,087	△23.4%
経常利益	6,759	5,140	△24.0%
第3四半期純利益	3,123	2,349	△24.8%

1株当たり第3四半期純利益 5,639円85銭（前年同期7,420円69銭）

* 当社は平成19年12月3日に株式移転にて株式会社パソナの完全親会社として設立されておりますが、移転方式が単独移転であり、実質的に連結するグループ集団には変更がないため、株式会社パソナの平成19年5月期 第3四半期の連結業績との比較を前年同期比として記載いたしております。

当期のわが国経済は、アメリカ経済の減速や原油価格の高騰などから、景気の下振れリスクが色濃く、雇用情勢についても、雇用関連指標の悪化が見られました。当社グループでは、人材紹介事業、アウトソーシング事業等の成長分野を拡大し、再就職支援事業にも注力し、総合化を推し進めました。一方、人材派遣事業においては、昨秋から年末にかけて派遣スタッフの確保が厳しく、また企業の派遣需要の一服感もあり、優秀な派遣スタッフの長期安定化は続いているものの、人材派遣事業全体の伸び率が鈍化したことから、連結売上高は177,766百万円（前年同期比4.1%増）となりました。利益面では、人材紹介事業、アウトソーシング事業などの収益性の高い事業が伸長したことにより売上総利益が拡大し、粗利率は20.8%まで改善いたしました。人材派遣事業での優秀なスタッフの獲得と長期安定化を促進するため、福利厚生などの拡充などを図ったことに加えて、成長分野で人的投資を実施したこと、更には家賃を中心とした拠点施設関連の費用等の販管費が増加したことから、連結営業利益は5,087百万円（前年同期比23.4%減）、連結経常利益は5,140百万円（前年同期比24.0%減）となりました。また、当第3四半期間に関連会社株式を売却し、投資有価証券売却益1,088百万円を特別利益として計上したことにより、連結第3四半期純利益は2,349百万円（前年同期比24.8%減）となりました。

【2】事業セグメント別業績概況（セグメント間内部取引消去前）

（単位：百万円／未満切捨）

売上高	2007年5月期 第3四半期	2008年5月期 第3四半期			
		2008年5月期 第3四半期	構成比（前年同期比増減）	前年同期比	前年同期比
人材派遣・請負	154,105	156,849	88.2%	△2.0pt	+1.8%
人材紹介	4,750	5,961	3.4%	+0.6pt	+25.5%
再就職支援	3,526	4,223	2.4%	+0.3pt	+19.8%
アウトソーシング	7,514	10,093	5.7%	+1.3pt	+34.3%
その他	1,506	1,544	0.8%	△0.1pt	+2.5%
消去又は全社	△703	△905	△0.5%	△0.1pt	—
合計	170,700	177,766	100.0%	—	+4.1%

営業利益	2007年5月期 第3四半期	2008年5月期 第3四半期			
		2008年5月期 第3四半期	構成比（前年同期比増減）	前年同期比	前年同期比
人材派遣・請負	5,328	3,615	71.1%	△9.1pt	△32.1%
人材紹介					
再就職支援	842	966	19.0%	+6.3pt	+14.7%
アウトソーシング	799	1,406	27.6%	+15.6pt	+76.0%
その他	△330	△15	△0.3%	+4.7pt	—
消去又は全社	4	△885	△17.4%	△17.5pt	—
合計	6,644	5,087	100.0%	—	△23.4%

●人材派遣・請負、人材紹介事業（パソナ、パソナテック、パソナキャリア 他）

 売上高 **162,810** 百万円（前年同期比 **2.5%**増）

 営業利益 **3,615** 百万円（前年同期比 **32.1%**減）

<人材派遣・請負> 売上高 **156,849 百万円（前年同期比 **1.8%**増）**

大企業を中心とした正社員採用の積極化により、人材派遣需要に一服感がみられる一方、引き続き人手不足感が強く推移したことから、新規登録者数はマイナス基調が続きました。しかしながら、派遣スタッフに対する福利厚生拡充や処遇の向上、フォロー体制の強化策等が奏功し、派遣稼働スタッフの長期安定化は更に進んでいます。顧客業種別では、電機や自動車などの製造業やサービス業が安定的に推移しており、派遣職種別では、ボリュームゾーンである一般事務（クラリカル）が横ばい、専門事務（テクニカル）は需要は強いものの、人材獲得が難しく伸び悩みました。前年同期に通信業界や生損保業界からの特需があったこともあり、人材派遣事業の売上高は**156,849**百万円（前年同期比**1.8%**増）と、安定的な成長ながらも、成長スピードは緩やかになってきています。

※派遣長期稼働者数、派遣職種別売上高...6 ページ

<人材紹介> 売上高 **5,961 百万円（前年同期比 **25.5%**増）**

企業の採用意欲は強く、また、転職希望者の登録についても堅調に推移しています。しかし、企業における中途採用が一巡、採用に慎重さが見られ、求める人材のスキルや経験が総体的に高くなっています。当社グループでは、サービスエリアの拡大やマネジメント層の求人ニーズへの対応強化など、幅広いサービスを提供する体制を整えるとともに、サービスクオリティの向上に向けたコンサルタント教育などにも着手し、顧客企業の要求レベルに対応できる体制強化を図っています。これにより、国内の人材紹介事業の売上高は**4,049**百万円（前年同期比**42.5%**増）と高い伸びとなりました。海外の人材紹介事業の売上高は**1,911**百万円（前年同期比**0.1%**増）となり、人材紹介事業全体の売上高は**5,961**百万円（前年同期比**25.5%**増）となりました。

<人材派遣・請負、人材紹介セグメント>

人材派遣事業での粘り強い料金交渉による請求単価の上昇により、スプレッドが緩やかに改善した一方で、社会保険料率の引き上げや有給休暇の取得増加、また一部地域のスタッフに対する交通費支給等により原価率が上昇し、人材派遣事業の粗利率は前年同期に比べ低下しましたが、人材紹介の増収により吸収、セグメント粗利率はやや改善しました。人材派遣事業における、派遣スタッフの長期安定化は、グループ全体の信頼感とブランドイメージの向上につながり、差別化戦略上欠かせないものとなっています。特に長期安定化を促進するべく、戦略的な投資を実施したため、前年同期に比べ販管費等の支出が増加しています。これらの結果、セグメントの売上高は 162,810 百万円（前年同期比 2.5%増）、セグメントの営業利益は 3,615 百万円（前年同期比 32.1%減）となりました。

●再就職支援事業（パソナキャリア 他）

売上高 4,223 百万円（前年同期比 19.8%増）

営業利益 966 百万円（前年同期比 14.7%増）

経営環境の先行き不安を受けて、大手企業では早期・希望退職の実施が散見され、再就職支援市場は底打ちの様相を呈しています。当社グループでは、業界唯一の全国ネットワークを活かした、より質の高いサービスを提供した結果シェアを拡大し、当第3四半期間においても、計画を上回るペースで順調に受注を獲得しています。この結果、売上高は4,223百万円（前年同期比19.8%増）、営業利益は966百万円（前年同期比14.7%増）となりました。

●アウトソーシング事業（ベネフィット・ワン 他）

売上高 10,093 百万円（前年同期比 34.3%増）

営業利益 1,406 百万円（前年同期比 76.0%増）

福利厚生のアウトソーシング市場は、堅調な企業需要に支えられ、引き続き拡大基調にあります。当社グループでは、従業員の給与と福利厚生とを一括で管理する「トータルコンペンセーション」などの提案営業を推進した結果、法人会員を着実に獲得しました。また、育児・介護を中心としたワークライフバランスに配慮したメニューの拡充など顧客満足度の高いメニュー開発にも注力しており、当第3四半期中においては、会員とその家族が楽しめるイベント「ベネフィットワン・フェスタ」を開催するなど、積極的な事業活動を展開しました。その結果、売上高は10,093百万円（前年同期比34.3%増）となりました。利益面ではオペレーションの効率化やコスト削減が大きく奏功し、営業利益は1,406百万円（前年同期比76.0%増）となりました。

●その他の事業

売上高 1,544 百万円（前年同期比 2.5 %増）

営業損失 15 百万円（前年同期は△330 百万円）

保育関連事業や教育事業、シニア向け生活支援サービスや大手企業系列の派遣子会社を対象としたシェアードサービス事業などを展開しており、売上高 1,544 百万円（前年同期比 2.5%増）、営業損失 15 百万円（前年同期は 330 百万円の損失）となりました。

【3】財政・投資の状況

●財政状況

当第3四半期末の総資産は、前期末に比べて 134 百万円増加（0.2%増）し、54,559 百万円となりました。

純資産は、前期末に比べて 1,972 百万円増加（7.3%増）し、28,877 百万円となりました。

自己資本比率は、前期末に比べて 2.6%ポイント増加し、43.7%となりました。

■財政状態の変動状況（連結）

	総資産（百万円）	純資産（百万円）	自己資本比率	1株当たり純資産
2008年5月期 第3四半期	54,559	28,877	43.7%	57,155円71銭
2007年5月期 第3四半期	48,775	25,576	43.6%	51,164円96銭
2007年5月期 通期	54,425	26,904	41.1%	53,759円81銭

<資産の部>

流動資産が38,181百万円と前期末に比べて905百万円の減少（2.3%減）となりました。これは受取手形および売掛金が前期末に比べて1,158百万円減少したことなどによるものです。固定資産は16,378百万円と前期末に比べて1,039百万円の増加（6.8%増）となりました。これはグループ戦略の中核拠点として新丸ビルオフィスを開設したことなどにより、有形固定資産が前期末に比べて753百万円増加（17.2%増）したこと、無形固定資産が前期末に比べて448百万円増加（16.9%増）したことなどによるものです。

<負債の部>

流動負債は23,903百万円と前期末に比べて1,800百万円の減少（7.0%減）となりました。固定負債は1,778百万円と前期末に比べて37百万円の減少（2.1%減）となりました。

●キャッシュ・フローの状況

当第3四半期会計期間における現金及び現金同等物は前期末に比べて768百万円増加（前年同期は4,055百万円の減少）し、当第3四半期末現在の残高は12,518百万円となりました。

<営業活動によるCF>

税金等調整前第3四半期純利益は前年同期に比べて561百万円減の6,051百万円となりましたが、営業債務の減少額が1,884百万円、法人税等の支払額が4,073百万円であったことなどにより、営業活動による資金の増加は203百万円（前年同期は981百万円の増加）となりました。

<投資活動によるCF>

主に有形固定資産の取得による支出1,960百万円、ソフトウェアなどの無形固定資産の取得による支出1,027百万円などにより、投資活動による資金の減少は1,938百万円（前年同期は2,497百万円の減少）となりました。

<財務活動によるCF>

配当金の支払1,062百万円などがありましたが、短期借入金の増加額3,523百万円などにより、財務活動による資金の増加は2,517百万円（前年同期は2,572百万円の減少）となりました。前第3四半期会計期間に比べ5,090百万円増加しているのは、前第3四半期会計期間に行った自己株式の取得（4,287百万円）が当第3四半期会計期間には発生していないこと、および短期借入金の増加額が482百万円増加していることなどによるものです。

■キャッシュ・フローの状況（連結）

（単位：百万円／未満切捨）

	営業活動によるCF	投資活動によるCF	財務活動によるCF	フリーCF
2008年5月期 第3四半期	203	△1,938	2,517	△1,735
2007年5月期 第3四半期	981	△2,497	△2,572	△1,516
2007年5月期 通期	5,897	△3,226	△5,607	2,671

【4】2008年5月期 通期業績予想

日本経済の先行き不透明感はますます色濃く、企業業績にも影響が出始めています。当社グループの手がける人材派遣事業では、大手企業を中心とした需要の一服感と優秀人材の確保の厳しさの両面を受けて、派遣稼働者数の伸びが鈍化傾向にありましたが、足元では、中小企業や地方企業などへの営業強化、稼働派遣スタッフからの口コミ登録強化などにより、人材派遣の受注数や新規登録者数は底打ちしつつあると見ております。景気の不透明感は一般的に外部人材活用の需要をもたらす傾向にあるため、今後回復すると予想しておりますが、その回復スピードは、当社グループの想定よりも緩やかである可能性が高いことに加えて、通信関連の需要が当初見込んでいたほど強くないことなどから、人材派遣事業の売上高が計画を下回る見通しとなりました。

また、当社グループでは総合化戦略を推し進めており、当期においても、人材紹介や再就職支援、アウトソーシング等の事業に注力しています。特に再就職支援事業は、顧客企業からの評価を受けてシェアを拡大しており、併せて景気とは逆相関で需要が拡大するところから足元は非常に好調で、計画を上回るペースで推移しています。一方、人材紹介事業では、当第3四半期まで順調に拡大していましたが、景気の不透明感から、企業における正社員採用意欲が弱まる可能性がでてきており、海外での人材紹介事業もサブプライムローン問題や為替レートの影響を一部で受けていることから、人材紹介事業全体では計画をやや下回る見通しとなりました。これらの状況から、連結売上高は238,130百万円（前年同期比3.0%増）と計画を下回る見通しとなりました。

利益面では、人材派遣以外の事業の売上総利益の増加に加え、業務の効率化やコストコントロールによる販管費の抑制があるものの、人材派遣事業の売上計画未達成による、売上総利益の減少幅が大きく、連結営業利益は6,480百万円（前年同期比23.8%減）、連結経常利益は6,720百万円（前年同期比23.7%減）、連結当期純利益は2,820百万円（前年同期比32.8%減）と、利益面においても計画を下回る見通しとなりました。

■連結業績予想（通期） ※業績予想は千万円未満を切り捨てて表示

（単位：百万円／未満切捨）

連 結	2007年5月期	2008年5月期通期予想	前年実績比(参考)
売 上 高	231,231	238,130	+3.0%
営 業 利 益	8,507	6,480	△23.8%
経 常 利 益	8,807	6,720	△23.7%
当 期 純 利 益	4,198	2,820	△32.8%

1株当たり予想当期純利益 **6,764円16銭**（前年同期 10,003円68銭）※予想期末発行済株式数 416,903株で算出

※2007年5月期実績は株式会社パソナの連結業績

【5】2008年5月期（2007年6月1日～2008年5月31日）配当予想

期末配当につきましては、当初の予定どおり1株につき1,300円の配当を予定しております。

	2007年5月期	2008年5月期（予想）		
配 当 金	2,000円	中間 1,200円	期末 1,300円	年間 2,500円

※平成20年5月期中間期末の配当は株式会社パソナが実施し、期末配当は株式会社パソナグループで実施予定

本資料に記載されている将来に関する記述の部分は資料作成時において当社が各種情報により判断した将来情報であります。その内容を当社として保証するものではありません。予想数字等は、今後の経済情勢、市場動向等の変化による不確実性を含有しております。また本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際は、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。

【参考データ】
●派遣長期稼働者数 (1ヶ月以上契約の長期稼働者数の四半期毎の単純平均。単位：人)

		株式会社パソナ				パソナグループ連結／国内			
		2006年5月期				2007年5月期			
		第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
月平均稼働者数		36,314	37,103	38,446	40,096	51,586	52,889	55,566	56,881
前年同期比		+8.4%	+8.5%	+8.0%	+10.2%	+13.4%	+13.1%	+14.9%	+12.8%
		2008年5月期				2008年5月期			
		第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
月平均稼働者数		42,825	42,350	42,387	—	55,168	54,619	54,758	—
前年同期比		+5.1%	+1.6%	△3.3%	—	+6.9%	+3.3%	△1.5%	—

※2006年5月期第4Qより、吸収合併した株式会社ソシオの数値を含む

※2008年5月期第1Qより、特別プロジェクト案件の影響が小さくなったためその数値を含む(参考値)

●派遣職種別売上高 (連結・内部取引消去後)

(単位：百万円／未満切捨)

	2007年5月期 第3四半期	2008年5月期第3四半期			
	売上高	売上高	構成比(前年同期比増減)	前年同期比	
クラリカル(一般事務)	84,295	84,915	54.2%	△0.6pt	+0.7%
テクニカル(専門事務)	25,393	25,202	16.1%	△0.4pt	△0.8%
ITエンジニアリング	15,718	16,639	10.6%	0.4pt	+5.9%
営業・販売職	12,138	14,092	9.0%	1.1pt	+16.1%
その他の派遣・請負	16,180	15,640	10.0%	△0.5pt	△3.3%
派遣付随業務	215	158	0.1%	0.0pt	△26.4%
合計	153,941	156,649	100.0%	—	+1.8%

●四半期毎業績推移

(単位：百万円／未満切捨)

売上高	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	通期
2006年5月期	48,726	49,520	50,484	55,084	203,815
2007年5月期	56,444	56,757	57,498	60,531	231,231
2008年5月期	60,489	59,026	58,250	—	—
前年同期比	+7.2%	+4.0%	+1.3%	—	—

営業利益	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	通期
2006年5月期	1,188	1,934	2,382	2,240	7,745
2007年5月期	2,277	2,037	2,330	1,862	8,507
2008年5月期	1,529	1,541	2,015	—	—
前年同期比	△32.8%	△24.3%	△13.5%	—	—

経常利益	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	通期
2006年5月期	1,207	1,895	2,381	2,360	7,844
2007年5月期	2,377	2,014	2,367	2,047	8,807
2008年5月期	1,584	1,560	1,994	—	—
前年同期比	△33.4%	△22.5%	△15.8%	—	—

当期純利益	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	通期
2006年5月期	543	939	1,113	992	3,588
2007年5月期	1,125	947	1,050	1,074	4,198
2008年5月期	795	268	1,286	—	—
前年同期比	△29.4%	△71.7%	+22.5%	—	—